

# インマヌエル中目黒キリスト教会

## 2013年2月10日 聖日礼拝

---

### 「家と自由

～私のたましいは大丈夫です。」

ヨハネ 15章 1－7節

ルカ15章25節－32節

河村 従彦 師



# 聖書朗読

## 新約聖書

### ヨハネの福音書15章1-7節

聖書本文は新改訳聖書第三版  
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版の聖書はp193/ 第三版の聖書はp211～

- 1 わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父は農夫です。
- 2 わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。
- 3 あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、もうきよいのです。
- 4 わたしにとどまりなさい。  
わたしも、あなたがたの中にとどまります。

枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。

- 5 わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。

- 6 だれでも、もしわたしにとどまっていなければ、枝のように投げ捨てられて、枯れます。人々はそれを寄せ集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。
- 7 あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。

# 聖書朗読

## 新約聖書

### ルカの福音書 15章25-32節

聖書本文は新改訳聖書第三版  
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

変更箇所： 25,26,31節

第二版の聖書はp135/ 第三版の聖書はp147

25 ところで、兄息子は畑にいたが、帰って来て  
家に近づくと、音楽や踊りの音が聞こえて来た。  
26 それで、しもべのひとりを呼んで、これは  
いったい何事かと尋ねると、  
27 しもべは言った。『弟さんがお帰りになったの  
です。無事な姿をお迎えしたというので、お父  
さんが、肥えた子牛をほふらせなされたのです』  
28 すると、兄はおこって、家に入ろうともしな  
かった。それで、父が出て来て、いろいろなだ  
めてみた。

29 しかし兄は父にこう言った。

『ご覧なさい。長年の間、私はお父さんに仕え、戒めを破ったことは一度もありません。

その私には、友だちと楽しめと言って、子山羊一匹下さったことがありません。

30 それなのに、遊女におぼれてあなたの身代を食いつぶして帰って来たこのあなたの息子のためには、肥えた子牛をほふらせなされたのですか。』



31 父は彼に言った。

『子よ。おまえはいつも私といっしょにいる。

私のものは、全部おまえのものだ。

32 だがおまえの弟は、死んでいたのが生き返って来たのだ。いなくなっていたのが見つかったのだから、楽しんで喜ぶのは当然ではないか。』」

# 説教

## 「家と自由

～私のたましいは大丈夫です」

ヨハネ15章1－7節

ルカ15章25節-32節

河村従彦師



I ぶどうの木である主のイメージ

A わたしたちのぶどうの木のイメージ

1 現代のぶどう

2 信仰的な意味で

～イエスさまはぶどうの木

## B 当時のぶどうの木のイメージ

### 1 ぶどうの木のたとえ

- (1) 比喩的表現
- (2) 役に立たないイメージ

### 2 ぶどうの木の絵

- (1) 土埃をかぶって見栄えが悪い
- (2) しかし、枝は木につながって  
いれば…

Q なぜイエスさまはぶどうの木なのだろうか

C イエスさまのイメージ

- 1 何の役に立たない、ぶどうの木のようなわたしだ というイメージ
- 2 そのようなイエスさまにつながっている

## II 家に帰ってくる息子のイメージ

A 文脈 兄が主人公

B 家は不自由だったのか

C 福音は自由

1 ~をしなさい、~をしてはいけない、  
の世界ではない

2 福音は自由 →家にいることだから

D ルカ15章の家

1 無条件の赦し 22節

2 存在が喜び 23節

# E わたしたちが帰った家

## 1 神の国＝家

存在が認められている場所

教会総会を越えて「それぞれの持ち場」  
「互いに仕え合う」

→私はここにいてよいのだという思い

## 2 家族の機能 ～ダイナミズムがある

一人が欠けを覚えると誰かが補っている

## 3 神さまの恵み ～失敗した時にも

「気にするな。君への信頼は揺るがないから」

## 締めくくりに

- 1 わたしたちが求めているのは「家と自由」
- 2 帰った家は、将来帰る家 → 希望